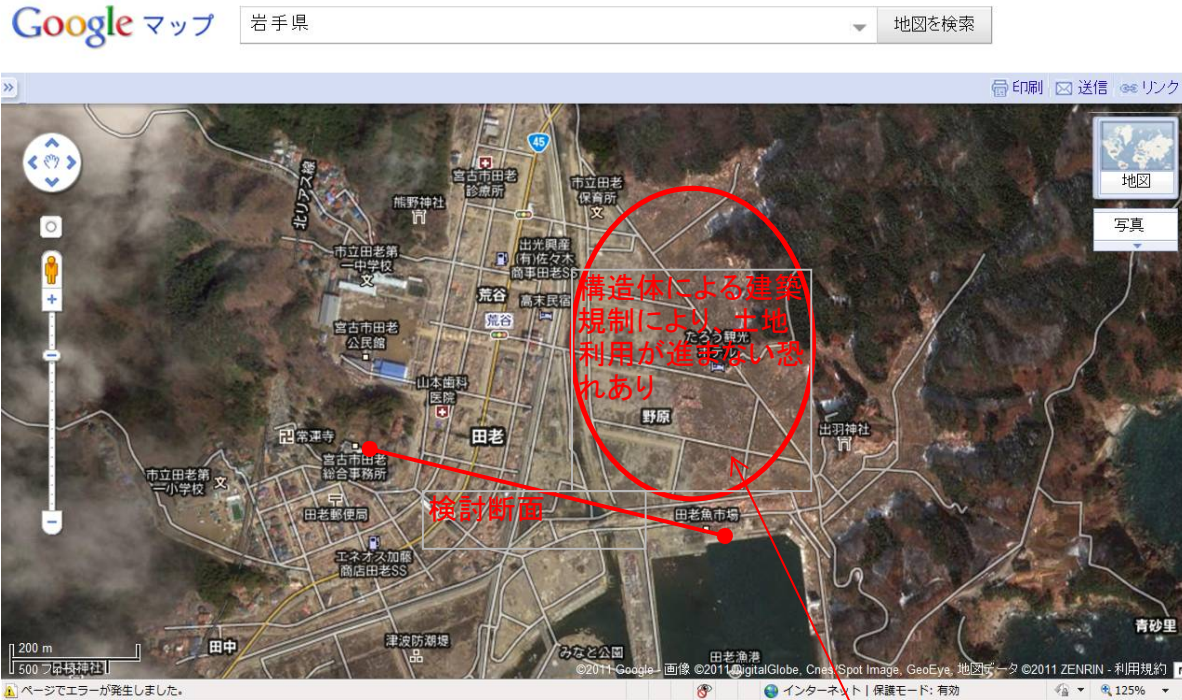


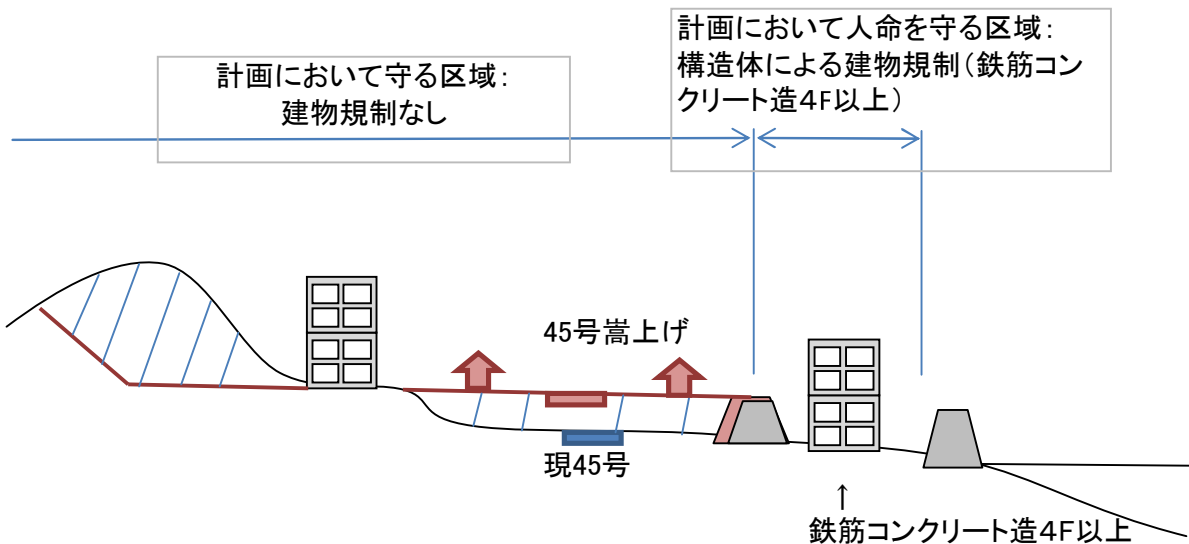
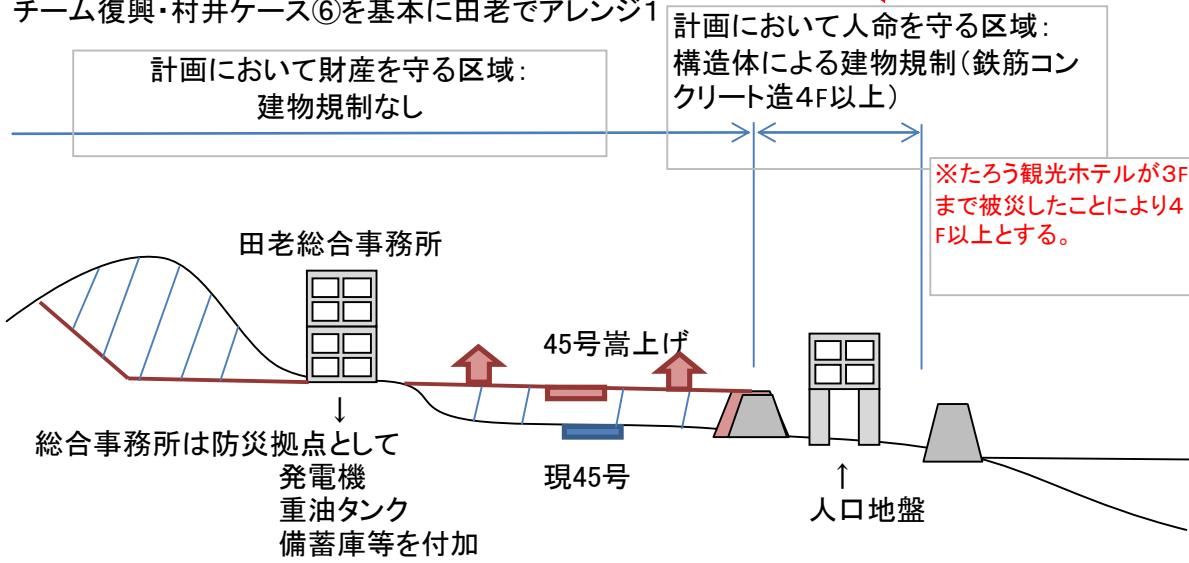
No.	項目			
1	被害状況	田老地区(人口約4400人の地区)の被害は、死亡130名強、行方不明70名弱、650名がグリーンピアに避難中。1600世帯が被災		
2	住民協働	<b>復興の主体は地域</b>	策定体制や策定プロセスを積み上げていくという姿勢	丁寧な事前調査が不可欠
				丁寧な住民の合意形成プロセスが必要
		まちづくりの時間軸	費用とタイムスケジュール	
3	まちづくりの視点	三陸の発展を第一に考えるべき。	コミュニティの維持は三世代の交流	津波防災・安全、仕事、暮らし、学び・こころ、地域公営、新しい公共、地域コミュニティ、都市計画
4	経営再建	仕事を通じて立ち上がっていくことが重要	なりわいとしての産業振興を通じた地域の振興	水産業、漁港関係産業は海から離れることができない
5	「持続可能性」	港の復旧は、すべて同時にやるのか、段階があるのかなど、具体的に詰めることが必要。	<b>地域特性を活かした機能の追加</b>	
6	計画作成	<b>津波防災まちづくり計画を策定</b>	施設計画と避難計画を一体として検討	<b>地域内の安全度を判定</b>
			<b>農業再生と都市機能復興を一体化した総合型まちづくり事業</b>	防潮堤整備
				高台市街地の造成
				<b>宅地のかさ上げや避難タワー建設により低地も利用</b>
				<b>盛り土の既存の道路には堤防機能</b>
				所有者不明の土地は自治体が一時的に管理

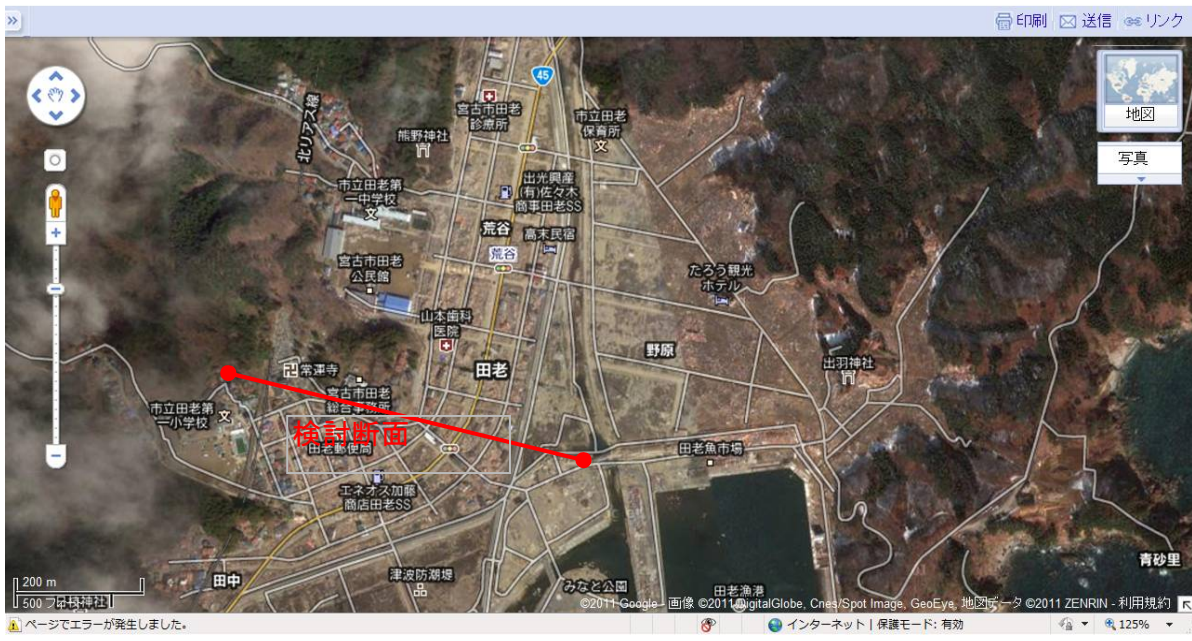
平井さんの『計画において、どこまで守るか?』の提案に係る検討シート  
 チーム復興・村井ケース⑥を基に、田老で想定して絵を描いてみました。

ウェブ 画像 動画 地図 ニュース ショッピング Gmail もっと見る iwilldedicatemylifetoyou@gmail.com



チーム復興・村井ケース⑥を基本に田老でアレンジ1





チーム復興・村井ケース⑥を基本に田老でアレンジ

計画において財産を守る区域：  
建物規制なし

計画において人命を守る区域：  
4F相当の避難タワーを設置し、漁業・港湾関連施設を整備可とする。

※たろう観光ホテルが3Fまで被災したことにより4F以上とする。

